

## 札チャレラジオ通信 第8回

2016年2月29日

加納：三角山放送局をお聞きの皆さん、こんにちは。1月から始めました札チャレラジオ通信の時間です。私はパーソナリティの加納といいます。よろしくお願いします。この札チャレラジオ通信は「自立を目指す障がいのある人がITでマザル、ハタラク、拓きあう社会」を作りたい、そんな思いで活動しているNPO法人札幌チャレンジドが、ここ三角山放送局から毎週月曜日午後3時から30分間お届けしております。ぜひぜひ30分お付き合いいただければと思います。よろしくお願いします。毎週毎週札幌チャレンジドのメンバーが来て一緒にやっておりますが、今日のアシスタントは就労グループの佐藤美貴さんです。佐藤さんよろしく。

佐藤：佐藤です。よろしくお願いします。

加納：雪、降りましたね。

佐藤：本当ですね。

加納：就労グループには、毎日札幌チャレンジドの事務所に私たち社員と同じように働きに来てる人がいるんですけど、今日は出勤状況は大丈夫でしたか。雪の影響を受けてましたか。

佐藤：JRの方は、来るのが1時間くらい遅れた方もいましたね。

加納：なかなかね。札幌チャレンジドは北7条西6丁目の本当に札幌駅からすぐそばで、ヨドバシカメラさんの斜め向かいにあるんですけど、そんな街中でもね、なかなか雪が降ると通ってくるのが大変ですね。

佐藤：そうですね。

加納：それでは今日のゲストをご紹介していきたいと思いますが、今日のゲストは今言いましたように、就労グループのメンバーで毎日札幌チャレンジドの事務所まで通ってきて一緒に働いている仲間の大田さんとリエさんです。こんにちは。

大田：リエ：こんにちは。

加納：こんにちは。大丈夫ですか、緊張していませんか。

大田：大丈夫です。

加納：そうですね。リエさん、固まってるよ。ユーストリームの画面を見てもらうと固まってる雰囲気が伝わってくると思いますが、ぜひぜひ楽にお付き合いください。それでは、まず最初にお二人に自己紹介を兼ねて札チャレとの出会いとか、可能な範囲でどのような障がいがあるかも含めてお話をいただきたいと思います。では、大田さんからお願いします。

大田：就労グループのメンバーの大田と申します。障がいは血友病 A という血液が止まりにくい病気で、それに付随しまして関節症があって、両足首と右股関節に人工関節を入れています。両肘も変形していたりとかしているのですが、だいたいいろんなことができます。札チャレとの出会いというのは、札幌チャレンジド自体も 2000 年に立ち上がったんですけど、その説明会が 2000 年の 3 月 25 日にあって、そのときに説明を聞きに来たはずなのにメンバーの壇上に立っていたという。

加納：札チャレで説明会があるというのを誰かに教えてもらって。

大田：その前に、北海道難病センターで「チャレンジド」という言葉を日本に紹介したという神戸の「プロップステーション」の竹中ナミさんの講演会がありまして、それを見てそのあとに新聞の小さい記事にその説明会があるというのを見て、見たら知り合いが関わっていたので、最初その説明会に行くつもりで紹介してって言ったらなぜか代表の方を紹介されまして、

加納：じゃあもう本当に札チャレのできる前から知ってるっていう感じですね。

大田：そうですね。

加納：なるほど。ありがとうございます。あ、いいですか。ではもう一方(ひとかた)、私たちは普段職場でリエさんリエさんと呼んでいるので、今日もリエさんと呼ばしてもらいたいと思います。お願いします。

リエ：リエです。私は左半身の麻痺で、仕事はほぼ右手だけでやってる状態で、左手はほとんど使えないので、Shift キーとか Ctrl キーを押すことぐらいしかできない状況です。札チャレとの出会いがほかの人とたぶん違うと思うんですけど、札チャレに来る数カ月くらい前になるのかな、に点字サークルを作りまして、その依頼を探すのにポラナビという冊子が

あるんですけども、それはなんかこういうことをしてほしいというボランティアさんを探すという目的のある冊子で、それを見てたら札チャレのことが載ってたので、今やってない仕事なんですけれど、そのときに募集してた札チャレのお仕事の内容を見て、もしかしたらこのご縁のあれだったら片手でもできるかもしれないなと思ってとりあえず行ってみたらその場でテストを受けさせてもらって、

加納：そんなに急にテストがありましたっけ。覚えてないなって言って逃げる。テストを受けて。

リエ：テスト受けたらすぐ面接受けて、

大田：とんとん拍子。

リエ：そのままずっと10年間くらい。感謝です。

加納：もう10年ですか。そうですね。そのある仕事、写真にキーワードをつけるっていう仕事をやってもらう人を探していて、リエさん、ちょっとテストを受けてみてったら、すごい成績よかったんですね。この人にはぜひやってもらいたいということで、

リエ：覚えているんですね。

加納：本当は覚えてる。美紀さんもその当時のこと、美紀さんはそのときいましたっけ。

佐藤：いえ、オオタさんもリエさんも私の先輩になります。よろしくお願いします。

加納：先輩だ。そういう意味では、本当に二人は札チャレの就労メンバーの中でも一番二番の古株ですよ。ずっと札幌チャレンジの成長とともに一緒に歩いてきていただいたし成長を見てくれていた人なので、このあといろいろなお話を聞かせていただきたいと思いますが、今、実際にパソコンを使って仕事をしていただいているんですけど、どんな仕事をそれぞれやられているのか、ぜひラジオをお聞きの方に教えていただければと思います。オオタさんはどんな仕事をしているんでしょうか。

大田：現在は動画監視業務を担当してまして、仕事の内容としましては、動画投稿サイトに投稿されている動画の内容が適切なものかどうかということをチェックをしています。あと、頻繁にあるわけではないんですが、ホームページの作成と更新といったような保守の関係ですね、そういったことを行っています。

加納：大田さんは一番最初、パソコン講習の講師をやっていた時期もありますよね。

大田：そうですね。札幌チャレの長期講習の一番最初の講師ですからね。

加納：そういう意味では、幅広く札幌チャレンジドで仕事をするメンバーとして関わっていたってことですね。ありがとうございます。では、リエさんは今、どんなお仕事されていますか。

リエ：大田さんと同じく動画監視のお仕事と、あとは「びもーる」というイベントサイトの入力業務のお仕事をさせていただきます。

加納：なるほど。美貴さんに聞きたいんですけど、それぞれやっている仕事、同じ仕事もあれば違う仕事もあるんですけど、その仕事の采配をするのが美貴さんのとても重要な仕事だと思うんですけど、どういうふうに人の、あなたはこれね、あなたはこの仕事ねっていうふうに担当決めをするときになんか心がけてやるとことか、この二人はこういうところからこういうふうにみたいなどでは、そのあたりを教えていただけますか。

佐藤：そうですね、今、目の前にいるお二人はとてもコミュニケーション力がまず高いと私は思っています。

加納：高い。

佐藤：なので、対人が特に関わるようなお仕事のほうが向いているなってまず考えました。特に大田さんなんかは、相手の困りどころに対してすぐピンとくる方なので、そういった意味で講師とかホームページの更新とか、相手の方のニーズがどこなのかつかみやすいっていう大田さんのよさを生かしたようなお仕事を一緒に考えるようにしています。

加納：なるほど。

佐藤：リエさんに関しても、丁寧であるってということと、あと一緒に働くメンバーが今、どんな状態なのかとか、そういったところにごく感受性がある方なので、グループでお仕事するところのリーダー的な感じっていうんですかね、そういった仕事に向いてるかなと思ってやってもらってます。

加納：ありがとうございます。

佐藤：二人とも首振ってますけど、そう思ってますよ。

加納：本当ね、二人とも札チャレ歴長いのも含めてですけど、次から次から新しい人が入ってきて、年齢的にも下の方が最近が増えてきてるしね、よきお兄さん、お姉さんとして面倒をみてもらうってのを我々期待したいとこですよ。

大田：そのうち息子になってきますからね、私。

加納：本当だよ。僕なんか間違いなく娘より年下の方が最近結構入ってきてますからね。びっくりしちゃう。

佐藤：最近平成生まれの方とかがどんどん来てますからね。

加納：本当驚いちゃうよね。ありがとうございます。リエさんは今、仕事の話も教えてくれたけど、最初の札チャレとのきっかけで、点字ボランティアがもともときっかけだということで、点字ボランティア本当に一生懸命やられているし、札チャレとも実はその点字ボランティアさんつながっているんで少しその点字ボランティアさんの、せっかくですから紹介していただけますか。

リエ：ありがとうございます。「わたぼうし」という名前で活動してまして、今、7人で一生懸命やっているんですけども、30代から70代までの幅広いメンバーたちが主に小説とかを点訳することが多くて、今は五木寛之さんの「親鸞」を一生懸命頑張ってる、それは誰かから依頼を受けたわけではないんですけど、依頼を受けたときはその方の好みのやつをやるので、またちょっと違ったものになるんですけど、あとは昔は札チャレにおられたコシヤマ先生という方がこれちょっとお願いと言ってテキストを渡してくれて、

加納：テキストの点訳ですか。

リエ：やらせていただいたこともあったんですけど、わかんないところを聞きにいくと適当でと言われます。先生、適当じゃ困りますって言いながら。

加納：テキストなのにね。ここは適当にやってくださいって書いちゃったりして。そうですか。でもね、そうやって目の不自由な人のために点字っていうのはとっても大切な、そういうものがなければ勉強したりすることもできないし、趣味でそういう耳で聞くだけじゃなくて手で触って読むっていうんですか、そういうのも大切なんですよ。ありがとうございます

ます。では、半分ぐらい経ちましたが、ここで少し休憩ってということで大田さんにリクエスト曲をお願いしたら、なかなか誰も聞いたことのなさそうな、

大田：そうですね。

加納：面白いところからジャンルをピックアップしてくれたんで紹介してください。

大田：札幌で活動してます「そしてスロウ」というバンドの「きみまち」という曲をお願いしたいと思います。

加納：三角山放送局から札幌チャレラジオ通信をお届けしております。今日は就労グループの大田さんとリエさんに来ていただいて、札幌チャレンジドで働いていることをお話を聞かせていただいておりますが、ふたりとももう十年選手ということなので、札幌チャレで働いてですね、よかったなとか、つらかったなとかですね、いろんな思いがたくさんあるんじゃないかと思いますが、少しですね、それぞれの方の、札幌チャレについてなにか思うことを聞かせていただきたいと思うので、大田さんいかがでしょうか。

大田：はい、そうですね、札幌チャレと出会ったときには、まだ実は講師になりたて、パソコンの講師っていう職業になりたての頃で、どちらかというと講師っていうことを札幌チャレンジドで育てていただいたっていうことを感じていますね。あと、札幌チャレンジドに出会ってよかったなと思うのは、いろんなことをさせていただいたので、そのことは、すごく今やっていないことでも、すごく身になったなと思いました。

加納：美貴さん、札幌チャレの仕事ってそういう機会を作ることというのはよくわれわれもね、内部で話してますよね。

佐藤：そうですね、なんかそういうふうに改めて言われるとうれしいですね。

加納：うれしいよね、だってやってみないとわからないんだからね。人はね。とはいいつつも無理そうなことをお願いしてもだめだから、やっぱりさっきのマッチングにつながってね、この人にはきっとこういうことが向いてるんじゃないか、っていう期待をこめてやってもらうっていうかんじですかね。

佐藤：そうですね。

加納：はい、ありがとうございます。じゃ、リエさんはいかがでしょう。

鈴木：私も、いろいろ考えてたんですけど、10年もあるので…

加納：ね、走馬灯のようにね、これこれこれ、とかって。

リエ：あの、たしかにいろんな仕事をさせていただいたなとか、あとなんか、出会った人たちがみんないい人たちばかりだったなとか、あと、こそっと点字のスキルも上げさせてもらったとか。お仕事させてもらったなとかそんなこともいろいろ考えつつ、そのときそのときによって自分の体調とかもすこし変化したりとかあるので、そういうときのことも、佐藤さんに相談して、ちょっとこの仕事がつらいですとか言ったら、じゃこっちの仕事は、っていうか感じで、自分の体調とかペースとかに合わせてお仕事を考えてくださるので、すごく助かっています。

加納：ですって、佐藤さん。

佐藤：もう、来てよかったです。

加納：ハンカチ、ハンカチ。ちがうか。そうですね、ほんとに、仕事だけじゃなくって仕事をするベース、体力というか体調が重要ですね。

佐藤：そうですね。

加納：はい、ありがとうございます。お二人ともそういう意味では本当にありがたい、うれしいなということを書いていただいて、なんかお願いしてみたいに言ってもらってですね。

佐藤：やらせみたいになっちゃいましたね。

加納：ほんとはね、人に言えない苦労とかもあると思うんだけど、でもまあ、ぼくらはそうだけど、やっぱり働いているといいことばかりじゃなくてね、つらいなとか、これは乗り越えないとやっぱりだめだよなと思うこともあると思うから、そういうことは別に、障害がある、なしかかわらずね、やっぱり仕事を長く続けていくうえでは、あつてしかるべきこと、それを乗り越えることによって成長していけるかな、なんて思ったりはしますが、それではですね、もうだんだん時間も終わりに近づいていますが、お二人とも10年たちましたが、次の10年も札チャレにいてくださいね。本当に、もうぜひぜひね、ずっと一緒にこれからも働いてほしいんですけども、札チャレでこれからどんなことをしてみたいですかね。な

にかこんなことを、自分個人としてでもいいし、札チャレがこんなことをしていったらいいなと思うことでもいいですし、札チャレのこれからみたいなことで、大田さんどうでしょう。

大田：そうですね、つねづね、ちょろちょろと言ったりしているんですけど、札幌チャレンジド発ということ、もうちょっと、受けてやってますというのではなくて、札幌チャレンジドが作りだしたものを配信、発信していきたいというのが、なにかしらの形であつたらいいなと思っています。

加納：なるほどね、美貴さんどうですか。

佐藤：そうですね、みなさん本当に才能や柔軟性がある方が多いので、私自身も常日頃それはやりたくて、いろいろ案を考えてはいますね。実現するように一緒にみんなでがんばりたいです。

加納：ね、本当にそう。ビジネス的に言ってもね、仕事としても企業さんから受託して、これをやってくださいって言ってみんな一生懸命にいい仕事してくれてるんだけど、札幌チャレンジド自らがものを売り出し、作り出して、それを、まあ商売にしていくって言いかたは変ですけど、ちゃんとそれを売って、自分たちの収入を上げていくと、そんなところもね、これから、まあ、次の10年の間にはしっかりとね、育てていきたいですよ。はい、ありがとうございます。リエさんは、どうでしょうか。

リエ：私は、とりあえず、自分のことなんですけど、現状維持かな、っていう。とりあえず今の仕事を一生懸命がんばって、今の仕事の中でいろんなスキルをちょっとずつ上げていったら、できることが増えたら周りがまた、ちがってくるかなと思って、あえて視野を広げていくよりは今の仕事を一生懸命がんばったほうがいいかなと思っています。

加納：うん、深いね。

佐藤：深いですね。

加納：なかなか深いね、これ。

佐藤：そうですね、いろんな考え方があって、札幌チャレンジドの仕事は安定しているんだと思うので、おふたりの意見それぞれうれしいですね。

加納：札幌チャレンジドの仕事を出してくださる企業さんがよくおっしゃるんだけど、札チ



ヤレのメンバーさん本当にやめないで、ずっと自分たちの会社の仕事をやってくださるので、そこにノウハウが蓄積されていくので仕事のクオリティがどんどんあがっていくわけですね、それが、ありがたいって言っていただくので、今のリエさんのお話のようにね、さらにそこを極めていくっていう。それも大切なことですね。

佐藤：そうですね、うん。

加納：はい、もう、ラストのテーマソングがかかってまいりまして、あと2分だよという合図になっておりますが、札幌チャレンジドは今日はこうやって働いているお二人に来ていただき、美貴さん、まだまだ人は募集しているのでしょうか。

佐藤：はい、札幌チャレンジドは既存の仕事でも募集していますし、これから先、クライアントさん、新しいクライアントさんとの出会いや、既存のクライアントさんとのさらなる仕事を深めていくために、メンバーを常に募集しています。

加納：そうですね。札幌チャレンジドの連絡先はですね、札幌の011-769-0843、平日の午前9時30分から午後5時30分まで、事務所っておりますので、ぜひですね、この番組を聞いてですね、札幌チャレンジドのことを知りたいと電話をいただいたら、まず、電話ほしいですね。

佐藤：はい、よろしくおねがいします。

加納：電話をすると美貴さんがでて、ね。まずは来ていただいて、面談、ご説明するんですよね。

佐藤：そうですね、見学とか、内容を説明させていただいて、必要に応じて体験等っておりますので、よろしくおねがいします。

加納：体験もしていただいたうえでですね、ここで働きたいとか、働けそうという方がですね、すこしずつなれて、仕事をしてもらおうと、そんな形でできてますね。

佐藤：はい。

加納：はい、ありがとうございます。札幌チャレンジドは障害のある方の働くを応援するというので、ほかにもたくさんのメンバーが働いておりますので、また、このラジオにもですね、ほかのメンバーにも来てもらっていろんな働くを伝えていきたいですね。

佐藤：はい、そうですね。

加納：はい、それでは今日は大田さん、リエさん、どうもありがとうございました。

大田：ありがとうございました。

鈴木：ありがとうございました。

佐藤：ありがとうございました。

加納：ありがとうございました、さようなら。

